

患者さんへ

「粘膜下層浸潤大腸早期癌に対するリンパ節転移危険因子と治療成績の検討」

この研究は、通常の診療で得られた記録を使って行われます。

このような研究では、国が定めた指針に基づき、対象となる患者さんお一人ずつから直接同意を得ることが困難な場合には、研究の目的を含む研究の実施についての情報を公開することが必要とされています。

なお、研究結果は学会等で発表されることがありますが、その際も個人を特定する情報は公表いたしません。

1 研究の対象	2010年1月より2028年12月までに湘南鎌倉総合病院外科で手術を受けた/受ける粘膜下層浸潤大腸早期癌の患者さん
2 研究目的・方法	<p>大腸癌検診の啓蒙や内視鏡機器の進歩、技術の向上により、早期癌の状態で大腸癌が発見されることが多くなり、かつ内視鏡治療のみで根治(完全に取りきる)的治療が可能になってきています。しかし、早期癌である粘膜下層浸潤大腸がん(T1大腸癌といいます)の約10%に肉眼的には完全切除している症例でも切除標本の病理学的所見により腸管の外側にあるリンパ節転移を起こしている症例が存在しています。この10%ほどの危険性があるために内視鏡治療後に外科的に腸管とリンパ節の切除を行っていますが、最近の研究で組織型によってはリンパ節転移リスクが極めて低いことが判明しています。</p> <p>この研究はT1大腸癌のリンパ節転移を起こす要因となった因子の解析と外科手術後の治療成績を検討して、より有効なT1大腸癌の治療方針の確立を目指します。</p> <p>研究の期間:施設院長承認後(2024年3月予定)～2029年3月</p>
3 情報の利用拒否	<p>情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんのご家族等で患者さんの意思及び利益を代弁できる代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としません。その場合は、「5. お問い合わせ先」までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p> <p>ただし、ご了承頂けない旨の意思表示があった時点で既に研究結果が公表されていた場合など、データから除けない場合もあり、ご希望に添えない場合もあります。</p>
4 研究に用いる情報の種類	年齢、性別、体重、検査所見、原疾患、術前治療有無、周術期成績、合併症、再発の有無、再発治療内容等
5 お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。</p> <p>研究責任者、照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先: 藤井正一 湘南鎌倉総合病院 外科 神奈川県鎌倉市岡本 1370-1 電話番号:0467-46-1717</p>